第 26 号　　2025. 3. 1

栃木市 教育委員会だより

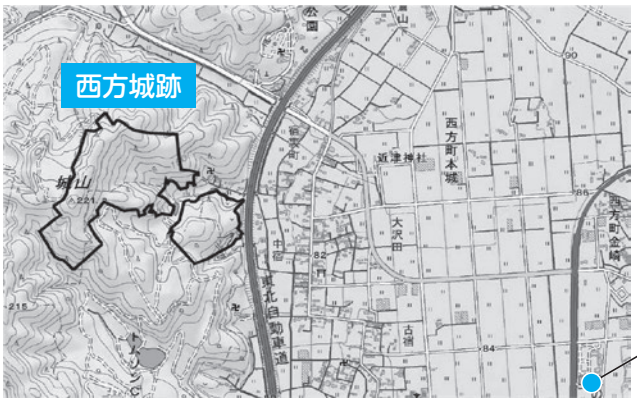
絆

発行：栃木市教育委員会
住所：栃木市万町９－２５
電話：０２８２－２１－２４６７
FAX：０２８２－２１－２６８９
Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp

西方城跡（にしかたじょうあと）が国史跡に指定されました！

令和６年10月11日、西方城跡が正式に国指定史跡となりました。
宇都宮氏の一族である西方氏により、小田原北条氏等の侵攻に対する備えとして築かれ、当時の形状が良く残っている貴重な山城であることが評価されたものです。
ぜひ、一度足を運んでいただき、中世の歴史を感じてみませんか。

【西方城跡山頂部遠景（東から） 白鳥昇一氏撮影】



・東武日光線「東武金崎駅」から徒歩約30分
・北関東自動車道「都賀IC」から車で約15分
・東北自動車道「都賀西方スマートインターチェンジ」から車で約５分
・登山口から山頂主郭跡まで徒歩約20分
※お車でお越しの方は長徳寺東側の見学者用駐車場に駐車してください。

教育委員会事務局　文化課文化財係
【電　話】0282-21-2497・2498
【Email】bunka02@city.tochigi.lg.jp

「誰一人　取り残さない教育の推進」

栃木市マスコットキャラクター とち介

『第３期栃木市教育計画』 **基本理念**

希望に向かい　伸び伸びと個性を発揮し
互いに認め合いながら　より良い社会を築いていく
‘とちぎ愛’に満ちた人を育てます

栃木市教育ニュース

「地域とともにある学校」をテーマに、学校行事の様子や「研究指定校公開研究発表会」の様子を市民の皆様にお知らせします。

地域とともにある学校

【栃木第四小：PTA 祭】

【岩舟小：運動会】

【大平中央小：ぶどう狩り】

【部屋小：宿泊学習】

【東陽中：文化祭】

【都賀中：文化祭】

【寺尾中：文化祭】

『誰もが住みやすい平和で豊かな未来のある栃木市』～栃木市民憲章～

今、子どもや地域や学校教育も多様化し、栃木市も大きく変わろうとしています。このときだからこそ、栃木市が目指す方向を確かめ、行動することが大事だと考えます。その羅針盤にあたるものの一つに「栃木市民憲章」があります。2020年（令和２年）10月10日「新生栃木市10周年記念式典」が行われ、「栃木市民憲章」が公表されました。その後、学校・地域あちこちで栃木市民憲章のポスターが掲げられ、毎月実施している栃木市教育委員会定例会の議案書の表紙にも記されています。市民憲章は、市長からの諮問を受け、栃木市市民憲章審議会が原案作成をし、市長へ答申をするという大きな役割をもって、令和元年６月３日から審議会がスタートしました。

司会をしながら感じたことは、20代から80代までの各世代から12名の審議委員の方々が栃木市を心から愛して止まないという熱量の高さです。そして、もっと魅力ある栃木市にしていきたいという熱い想いと意欲が強かったことで、毎回活発な話し合いが続きました。策定にあたっては、教育基本計画や他課の基本計画などに目を通し、栃木市の自慢できるところや、更によくしていきたいところ等を見つけるために改めて歩き回ったりしながら、“温故知新”の精神で百年先の栃木市をイメージしました。そして、誰でも読み取れ、自分事として行動できるよう平易な言葉で、５項目の目標に全ての想いを込めて表現し、さらに裏面に解説を加えてみました。

市民憲章は、その性格上、策定して終わりではなく、むしろ憲章の内容と精神を学校・家庭・地域に浸透させていくことが大切だという認識に立ち、各委員と毎回夜遅くまで協議を重ね、深めてきました。そして、令和２年３月25日市長公室で「市民憲章（原案）答申書手交式」を行いました。

私事ですが、平成20年４月に仕事の関係で栃木市に単身赴任しました。３年程で住み慣れた家に戻る予定でしたが、豊かな自然と多くの歴史と文化が息づくこの栃木市に心底魅了され、２年後には、この地を“終の棲家”と決めました。

「栃木市民の歌～明日への希望～」（作詞：麻衣、作曲：久石譲）の１番と２番の詞に「この地に生まれてきて（育てられて）私は今ここにいる」、そして３番では「この地と共に歩み 私は今ここにいる」と続き、最後には「未来をきずく栃木市」とつながっています。

私たち委員は、まさにこの詞に込められている美しいふるさと栃木市に誇りと愛着をもち未来永劫、誰もが住みやすい平和で豊かな未来を創ろうという想いを共有しながら、まとめあげました。

今後は、憲章の策定に関わった一人として、賑わいのあるまちづくりを目指すための行動目標として、改めて「栃木市民憲章」を心に刻み直しました。

教育長職務代理者　後藤　正人

研究指定校公開研究発表会

教育委員会では、「栃木市教育計画」及び「令和６年度学校教育の重点」を踏まえ、人生の礎となる生きる力を育成する学校教育の一層の充実と推進に努めてまいります。

【西方ブロック
学力向上推進研究校公開研究発表会】

※児童生徒一人ひとりの確かな学力を育成するため、安心・自信・意欲を高める学習指導や、すべての児童生徒の学びやすさを目指した指導・支援の方法についての実践研究に取り組んでいます。

【栃木東ブロック
道徳教育推進研究校公開研究発表会】

※児童生徒一人ひとりに、人間としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を育成するため、指導計画の改善、道徳科の授業改善・充実・評価の工夫等についての実践研究に取り組んでいます。

【栃木西ブロック
グローバル教育プログラム実践研究校公開研究発表会】

※児童生徒に、正しい知識をもとに、多面的・多角的な視点から物事をとらえ、客観的に判断することのできる思考力・判断力を育成するため、各教科等における「グローバル教育プログラム」についての実践研究に取り組んでいます。

教育委員の活動日誌

教育委員は、栃木市の教育の充実のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今号では、教育委員が市内小中学校を訪問した際の様子を紹介します。今年は４つの小学校と４つの中学校で実施しました。訪問先の学校では、子どもたちの元気な姿を見ることができました。

教育委員学校訪問

【訪問した学校】
栃木中央小・大宮南小
国府北小・東陽中
皆川中・赤麻小
都賀中・西方中

「努力をする人は希望を語り、怠ける人は愚痴を語る」昨年志半ばで病に倒れた大平中学校の三谷校長先生が好んだ言葉とあった。誰彼となく平等に言葉をかけ、いわゆる「ヤンチャな子」たちの話にもきちんと耳を傾けたという。今日本では、教師という職業がブラックだと騒がれているが、そんなきつい環境を与え続けていて子どもたちは本当に幸せだろうか。たくさんの本を読み、子どもたち一人ひとりに言葉の贈り物をしてあげられる、そんな余裕を彼らに与えてあげたいと思う。

教育委員　福島　鉄典

今年も教育委員会では、地域の学校を訪問し、授業や行事を通じてリアルな子ども達の笑顔や学びの様子に触れることができました。

対話の多い授業では、子ども達の健やかな育ち、身につけたい力を引き出そうと、先生方の情熱や温かい言葉かけを受けて、キラキラした瞳で答える子ども達の姿に感動しました。

そして、地域の方々とのあたたかな関りを感じ、学校、家庭、地域が手を取り合う大切さを改めて実感しました。

今しかない子ども達のこども時間を温かく見守りながら、皆さんと一緒に歩んでいきたいと思っています。

教育委員　舘野　知美

「将来の夢」を書いている小６の教室を巡視しているときに、一瞬女児の視線を感じたので近づいてみました。なのに恥ずかしいのか、両手をピタと閉じて見せてくれません。紙を引っ張っても、指の力を緩めません。

自分も小4か5年のとき、小川の水中で水晶の乗った小石を見つけたことがあります。その半透明な六角形を、机の奥にしまっては時々眺めていました。それからあれこれあり、美しい不変の真理とは何なのか、論理学だ哲学だと四十年以上も研究し仕事にし続けるとは思ってもみませんでした。

そこに何と書いてあるかは知らず、この少女は、両手の小箱に美しい宝を育て、力強く歩むだろうとうれしく想像した次第です。

教育委員　林　慶仁

学校訪問は毎回楽しみにしております。

小中学生の元気な「こんにちは！」の声に迎えられ校長室へと向かいます。校舎の所々に置かれているお花や植物が目に止まります。これも地域の方々が来て飾ってくださると嬉しそうに教えてくださる校長先生。地域との繋がりを感じます。職員室では働き方改革の工夫が見られ先生方の努力を感じます。

こんな風に各学校の特徴を直接見たり聞いたりでき毎回とても勉強になります。ただコロナ禍までは子どもたちと一緒に給食を食べ、雑談できましたが今はそれがなくなってしまい残念です。

教育委員　西脇　はるみ

親も成長！ハッピー子育て講座
～ 学びと交流で育む、親子の笑顔と豊かな家庭 ～

今年度も市教育委員会主催の「ハッピー子育て講座」を市内の小中学校や保育施設で開催し、多くの保護者の皆様にご参加いただきました。講座では、家庭教育における保護者としての役割や子どもの心身発達に関する学びの場を提供し、参加者同士が交流し合うことで、共感と支え合いの場を築くことができました。

講座では、家庭教育の専門家の講話や地域の家庭教育オピニオンリーダーによる「親学習プログラム」といった実践的な参加型学習に取り組み、参加者からは「子育ての視点が広がった」「同じ悩みを持つ親同士で話ができて励みになった」などの声が寄せられました。また、講座終了後には個別相談の機会を設け、子育てに対する不安や疑問に対して具体的なアドバイスを提供することで、さらなる理解の向上に努めました。

今後も、保護者の皆様が気軽に学び、交流できる場として、よりよい家庭づくりをサポートしてまいります。

私の一押し事業でも紹介させて頂いた「ハッピー子育て講座」ですが、平成25年からはじまり、目的は「家庭教育力の向上」。プロの講師から多面的な見方、視点など様々な事が学べ、そこで取得したものを、我が子やご家庭で試せる大人の学びの場です。こんなステキな講座が、今年度よりお住まいの中学校区にある学校でも参加できることになりました。ぜひ、自らの学びの為に足を運んでみてください。たくさんの気づきがあるはずです。　**教育委員　大塚　裕子**

【西方中学校】

教育長通信 ～とちぎ発 グローバル教育は､今～

「隣の人を大切にできない人が、遠い世界の人の存在を大切にできるはずがない！」本市のグローバル教育にご助言いただいている、金森 強文教大学教授の言葉です。

グローバル教育と言っても、「いったいどんな教育？」「何を目指すの？」との声が聞こえて来そうです。そこで今回は、本市が進めるグローバル教育について、その取組の一端をご紹介いたします。

今私たちは、目まぐるしく変化する予測困難な社会の中に生きています。同時に価値観も多様化し、自分とは異なる意見や考え方にたくさん出会います。そんな社会だからこそ、子どもたちには多様な人々と協働しながら様々な課題を乗り越え、豊かな人生を切り開き持続可能な社会の担い手になってほしい。そういった願いがグローバル教育の根底にあります。

そのために必要な力の育成に向けて、令和５・６年度の２年間、栃木西ブロックの３校（栃木中央小・栃木第五小・栃木西中）において、「グローバル教育プログラム」をもとに実践研究に取り組んでいただきました。このプログラムについては、全く新たな取組なのではなく、子どもたちが各教科等で学習したことを横断的・有機的に結びつけながら、実社会の中にあるSDGｓ※に関連した解決の難しい課題（例えば食の問題、人権の問題、環境の問題、原発の問題…）について考え意見交換する中で、自分たちの考えを再構築していくといった学習プログラムです。この学びのプロセスはすなわち、学習指導要領が目指すところの「主体的、対話的で深い学び」の具現化そのものと言えます。

秋に行われた栃木西ブロック３校での公開研究発表会では、取り上げられたSDGｓに関連したトピックについて、事前の調べ学習をもとに自分の考えをしっかりともった上で、ペアやグループでの意見交換を通じて自分の考えを広げたり深めたりする子どもたちの姿を目の当たりにすることができました。話し合いの過程では「へえ～、そんなことも考えたんだ」「どうしてそう思ったの？」「私は逆で…」などなど、子どもたちの自然で忌憚ないつぶやきや発言が随所で聞かれ、微笑ましさと共に頼もしさを感じました。次年度からは、本ブロックの研究の成果をもとに、市内全小中学校で「グローバル教育プログラム」を実践していくことになります。

「グローバル」と聞くと、とかく遠い世界に目が向きがちですが、先の金森先生の言葉を肝に銘じ、子どもたちに故郷（ふるさと）への誇りと愛着を育むことを通してアイデンティティーの確立を図りながら、地に足の着いた、本市ならではのグローバル教育を推進してまいります。

※SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、2015年に国連で採択された2030年までに達成すべきと掲げられた17の目標

教育長　青木　千津子

【編集後記】 “教育委員会だより 絆” は市民の皆様に、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想はこちらまでお寄せください。
栃木市教育委員会教育総務課　〒328-8686 栃木市万町９-25
電話：0282-21-2467　FAX：0282-21-2689　Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp